

和歌山県立医科大学薬学部 シラバス

科目名	薬物治療学演習
科目名 (英文)	Pharmacotherapeutics (Practice)
学部・学科	薬学部・薬学科
配当年次・学期	4年次・前期
クラス	全クラス
履修区分	必修
授業担当者	岩倉 浩、上田 陽子、延生 卓也
科目ナンバリング	P6072JB
関連科目	薬理学Ⅰ、薬理学Ⅱ、薬理学Ⅲ、薬理学演習Ⅰ、薬理学演習Ⅱ、 薬理学演習Ⅲ・病態生理学Ⅰ、病態生理学Ⅱ、 薬物治療学Ⅰ、薬物治療学Ⅱ、薬物治療学Ⅲ

本科目が求めるアウトカム・コンピテンシー

薬理学、病態生理学、薬物治療学の講義で学んだ知識に基づいて、疾患、個々の患者に応じた薬物治療の適性について判断できる。

ディプロマ・ポリシーにおける本科目が養う資質・能力

薬物治療学の講義で身につけた専門的な知識を統合的に活用し、個々の患者の病態に応じた、また、社会的、心理的背景にも配慮した薬物治療の実践能力を養う。

アウトカム・コンピテンシーへの到達に関する評価

薬物治療の実際に対する知識習得の程度、知識に基づいた判断能力について、筆記試験およびチーム基盤型学習における積極性、協調性等に基づいて評価を行う。

授業計画

回	学習内容・課題	学習方法 (場所)	評価方法
1	ガイダンス	講義 (講義室)	期末試験
2	神経疾患系演習	演習 (講義室)	期末試験
3	精神疾患演習	演習 (講義室)	期末試験
4	免疫・アレルギー疾患演習	演習 (講義室)	期末試験
5	血液・造血器疾患演習	演習 (講義室)	期末試験
6	循環器疾患演習	演習 (講義室)	期末試験
7	骨・カルシウム代謝疾患演習	演習 (講義室)	期末試験
8	消化器系疾患演習	演習 (講義室)	期末試験
9	呼吸器系疾患演習	演習 (講義室)	期末試験
10	代謝系疾患演習	演習 (講義室)	期末試験
11	内分泌系疾患演習	演習 (講義室)	期末試験
12	腎臓疾患、泌尿器疾患、婦人科疾患演習	演習 (講義室)	期末試験
13	関節疾患、眼疾患、耳鼻咽喉科疾患、皮膚疾患 演習	演習 (講義室)	期末試験
14	総まとめ1	演習 (講義室)	期末試験
15	総まとめ2	演習 (講義室)	期末試験

教科書

教科書は使用せず、適宜テキストを配布する。

参考書

特になし

評価時期

期末試験（15回後）

評価方法

期末試験（100%）

評価基準

総評価の60%以上で合格。

学生へのメッセージ

薬物治療学演習では、これまで学んできた講義の知識を利用して、実際の患者においてどのような薬物治療を行うべきか判断する能力を養うためにチーム演習を行う。演習を有意義なものにするためにも、十分な予習と、積極的に参加する姿勢が望まれる。

担当者の研究室等

研究室 802

オフィスアワー：毎週木曜日 12:40～13:40 17:30～18:30

備考、事前・事後学習課題

演習までに、与えられた課題の予習および復習を2～3時間程度行うこと。

和歌山県立医科大学薬学部 シラバス

科目名	医療安全学 I
科目名 (英文)	Medical Safety I
学部・学科	薬学部・薬学科
配当年次・学期	4 年次・前期
クラス	全クラス
履修区分	必修
授業担当者	松原 和夫、岡田 浩
科目ナンバリング	P6073JA
関連科目	地域医療薬学 I、地域医療薬学 II、社会薬学 I、社会薬学 II、社会薬学 III、社会薬学 IV、社会薬学 V

本科目が求めるアウトカム・コンピテンシー

- ・ 医薬品を使用する上で、必須の医薬品情報の収集の方法を知る
- ・ 医療安全や医薬品情報に関わっている職種やその役割についての知識を習得する
- ・ 医薬品の市販後に行われる調査・試験と得られる医薬品情報について知識を習得する
- ・ 要指導医薬品・一般用医薬品と医療用医薬品、サプリメント、保健機能食品等との代表的な相互作用について知識を習得する

ディプロマ・ポリシーにおける本科目が養う資質・能力

本科目により、地域におけるセルフメディケーションに用いる一般医薬品・医療用医薬品・サプリメント・保健機能食品などの相互作用や代表的な副作用などを知り、説明できる能力を養う

アウトカム・コンピテンシーへの到達に関する評価

- ・ 医療倫理について患者安全の考え方について説明できる
- ・ 医療安全や医薬品情報に関わる職種とその役割について説明できる
- ・ 医療用医薬品、一般用医薬品、保健機能食品、食品について相互作用について説明できる

授業計画

回	学習内容・課題	学習方法 (場所)	評価方法
1	ガイダンス	講義 (講義室)	レポート 期末試験
2	医療倫理の理論 1	講義・演習 (講義室)	レポート 期末試験
3	医療倫理の理論 2	講義・演習 (講義室)	レポート 期末試験
4	医療倫理の理論 3	講義・演習 (講義室)	レポート 期末試験
5	グループ発表 1	講義・演習 (講義室)	授業への参加態度
6	医療管理の理論 1	講義・演習 (講義室)	レポート 期末試験
7	医療管理の理論 2	講義・演習 (講義室)	レポート 期末試験
8	医療管理の理論 3	講義・演習 (講義室)	レポート 期末試験
9	グループ発表 2	講義・演習 (講義室)	授業への参加態度
10	医療安全と医薬品 1	講義・演習 (講義室)	レポート 期末試験
11	医療安全と医薬品 2	講義・演習 (講義室)	レポート 期末試験
12	医療安全と医薬品 3	講義・演習 (講義室)	レポート 期末試験
13	グループ発表 3	講義・演習 (講義室)	授業への参加態度
14	医療安全の新しい考え方 1	講義・演習 (講義室)	レポート 期末試験
15	医療安全の新しい考え方 2	講義・演習 (講義室)	レポート 期末試験

教科書

松村由美 編 「医療安全学」 メディカルレビュー社 2018年

参考書

森本剛 編さん 医療安全学 篠原出版新社

中島和江 編 「レジリエント・ヘルスケア入門」 医学書院 2019年

評価時期

授業への参加態度（5、9、13回時）

レポート（1～4、6～8、10～12、14、15回時）

期末試験（15回後）

評価方法

授業への参加態度（50%）

レポート（20%）

期末試験（30%）

授業への参加態度は、討議への参加の程度や意見の斬新さ、説得力により評価する。

レポートは、課題に対する理解度、論理性により評価する。期末試験は、医療安全について、薬剤師としてどのようにかかわるのかについて論述できることが問われる。

評価基準

授業への出席が2/3未満である場合は、単位を与えない。

総評価の60%以上で合格とする。

学生へのメッセージ

薬剤師になれば、職場が病院、薬局を問わず、医療安全に関わることになります。本科目を通じて、医薬品の安全にとどまらず、医療安全について幅広く学んでくれることを望みます。

担当者の研究室等

教員室 104（松原）

オフィスアワー：毎週月曜日 12:40～13:40 17:30～18:30

研究室 502（岡田）

オフィスアワー：毎週金曜日 12:40～13:40 17:30～18:30

備考、事前・事後学習課題

授業内容の理解を深めるために、事前に配布される資料などを読んでくること。毎回、授業内容に関するミニレポートを課し、これに基づいて成績を評価するので注意すること。

和歌山県立医科大学薬学部 シラバス

科目名	社会薬学Ⅳ
科目名（英文）	Social Pharmacy Ⅳ
学部・学科	薬学部・薬学科
配当年次・学期	4年次・前期
クラス	全クラス
履修区分	必修
授業担当者	岡田 浩
科目ナンバリング	P6074JA
関連科目	地域医療薬学Ⅰ、地域医療薬学Ⅱ、医療安全学Ⅰ、医療安全学Ⅱ

本科目が求めるアウトカム・コンピテンシー

- ・患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ
- ・チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する
- ・患者・患者家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる
- ・医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる
- ・医薬品に関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる

ディプロマ・ポリシーにおける本科目が養う資質・能力

- ・患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度を理解する
- ・薬剤師としてチーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を知る
- ・医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する
- ・代表的な薬害についてその原因と社会的背景を説明できる知識を習得する
- ・医療過誤やインシデントの事例から、その原因と防止策を考えることができる

アウトカム・コンピテンシーへの到達に関する評価

- ・過去の事例を題材に、原因を分析し、防止策を立てられる
- ・薬剤師のプロフェッショナリズムについて、自らの考えを述べることができる
- ・医薬品のリスクについて、薬剤師として患者を守る義務と責任について述べるができる

授業計画

回	学習内容・課題	学習方法 (場所)	評価方法
1	ガイダンス	講義 (講義室)	レポート 授業への参加態度
2	医療安全 1	講義・演習 (講義室)	レポート 授業への参加態度
3	医療安全 2	講義・演習 (講義室)	レポート 授業への参加態度
4	医療安全 3	講義・演習 (講義室)	レポート 授業への参加態度
5	グループ発表 1	講義・演習 (講義室)	グループ発表 授業への参加態度
6	患者の安全と薬害 1	講義・演習 (講義室)	レポート 授業への参加態度
7	患者の安全と薬害 2	講義・演習 (講義室)	レポート 授業への参加態度
8	患者の安全と薬害 3	講義・演習 (講義室)	レポート 授業への参加態度
9	グループ発表 2	講義・演習 (講義室)	グループ発表 授業への参加態度
10	医療過誤とインシデント 1	講義・演習 (講義室)	レポート 授業への参加態度
11	医療過誤とインシデント 2	講義・演習 (講義室)	レポート 授業への参加態度
12	医療過誤とインシデント 3	講義・演習 (講義室)	レポート 授業への参加態度
13	グループ発表 3	講義・演習 (講義室)	グループ発表 授業への参加態度
14	リスクマネジメント 1	講義・演習 (講義室)	レポート 授業への参加態度
15	リスクマネジメント 2	講義・演習 (講義室)	レポート 授業への参加態度

教科書

教科書は使用せず、適宜テキストを配布する。

参考書

森本剛 編さん 「医療安全学」 篠原出版新社

中島和江 編 「レジリエント・ヘルスケア入門」 医学書院 2019年

宮田靖志 監訳 「日常診療の中で学ぶプロフェッショナリズム」 カイ書林 2018年

評価時期

授業への参加態度（毎回）

レポート（1～4、6～8、10～12、14～15回時）

グループ発表（5、9、13回時）

評価方法

授業への参加態度（50%）

レポート（30%）

グループ発表（20%）

授業への参加態度は、討議への参加の程度や意見の斬新さ、説得力により評価する。

レポートは、課題に対する理解度、論理性により評価する。グループ発表は、地域医療について、薬剤師としてどのようにかかわるのかについて論述できることが問われる。

評価基準

授業への出席が2/3未満である場合は、単位を与えない。

総評価の60%以上で合格とする。

学生へのメッセージ

本科目では、講義と討議を組み合わせで行う。学生諸君の積極的な参加を期待します。

担当者の研究室等

研究室 502

オフィスアワー：毎週金曜日 12:40～13:40 17:30～18:30

備考、事前・事後学習課題

事前に配布する資料を読んてくること。可能であれば次回の授業課題について、事前に告知するので各自で調べておくと理解が深まります。

和歌山県立医科大学薬学部 シラバス

科目名	社会薬学Ⅴ
科目名（英文）	Social PharmacyⅤ
学部・学科	薬学部・薬学科
配当年次・学期	4年次・前期
クラス	全クラス
履修区分	必修
授業担当者	岡田 浩
科目ナンバリング	P6075JA
関連科目	地域医療薬学Ⅰ、地域医療薬学Ⅱ、医療安全学Ⅰ、医療安全学Ⅱ

本科目が求めるアウトカム・コンピテンシー

- ・患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ
- ・チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する
- ・患者・患者家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる
- ・医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる
- ・医薬品に関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる

ディプロマ・ポリシーにおける本科目が養う資質・能力

- ・患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度を理解する
- ・薬剤師としてチーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を知る
- ・医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する
- ・代表的な薬害についてその原因と社会的背景を説明できる知識を習得する
- ・医療過誤やインシデントの事例から、その原因と防止策を考えることができる

アウトカム・コンピテンシーへの到達に関する評価

- ・過去の事例を題材に、原因を分析し、防止策を立てられる
- ・薬剤師のプロフェッショナリズムについて、自らの考えを述べることができる
- ・医薬品のリスクについて、薬剤師として患者を守る義務と責任について述べるができる

授業計画

回	学習内容・課題	学習方法 (場所)	評価方法
1	ガイダンスとオーバービュー	講義 (講義室)	レポート 授業への参加態度
2	研究倫理 1	講義・演習 (講義室)	レポート 授業への参加態度
3	研究倫理 2	講義・演習 (講義室)	レポート 授業への参加態度
4	研究倫理 3	講義・演習 (講義室)	レポート 授業への参加態度
5	グループ発表 1	講義・演習 (講義室)	グループ発表 授業への参加態度
6	医療倫理 1	講義・演習 (講義室)	レポート 授業への参加態度
7	医療倫理 2	講義・演習 (講義室)	レポート 授業への参加態度
8	医療倫理 3	講義・演習 (講義室)	レポート 授業への参加態度
9	グループ発表 2	講義・演習 (講義室)	グループ発表 授業への参加態度
10	プロフェッショナリズム 1	講義・演習 (講義室)	レポート 授業への参加態度
11	プロフェッショナリズム 2	講義・演習 (講義室)	レポート 授業への参加態度
12	プロフェッショナリズム 3	講義・演習 (講義室)	レポート 授業への参加態度
13	グループ発表 3	講義・演習 (講義室)	レポート 授業への参加態度
14	医療の質 1	講義・演習 (講義室)	レポート 授業への参加態度
15	医療の質 2	講義・演習 (講義室)	レポート 授業への参加態度

教科書

教科書は使用せず、適宜テキストを配布する。

参考書

森本剛 編さん 「医療安全学」 篠原出版新社
中島和江 編 「レジリエント・ヘルスケア入門」 医学書院 2019年
宮田靖志 監訳 「日常診療の中で学ぶプロフェッショナリズム」 カイ書林 2018年

評価時期

授業への参加態度（毎回）
レポート（1～4、6～8、10～15回時）
グループ発表（5、9回時）

評価方法

授業への参加態度（50%）
レポート（30%）
グループ発表（20%）
授業への参加態度は、討議への参加の程度や意見の斬新さ、説得力により評価する。
レポートは、課題に対する理解度、論理性により評価する。グループ発表は、地域医療について、薬剤師としてどのようにかかわるのかについて論述できることが問われる。

評価基準

授業への出席が 2/3 未満である場合は、単位を与えない。
総評価の 60%以上で合格とする。

学生へのメッセージ

本科目では、講義と討議を組み合わせて行う。学生諸君の積極的な参加を期待します。

担当者の研究室等

研究室 502
オフィスアワー：毎週金曜日 12:40～13:40 17:30～18:30

備考、事前・事後学習課題

事前に配布する資料を読んてくること。可能であれば次回の授業課題について、事前に告知するので各自で調べておくと理解が深まります。

和歌山県立医科大学薬学部 シラバス

科目名	臨床感染制御学
科目名（英文）	Clinical Infection Control
学部・学科	薬学部・薬学科
配当年次・学期	4年次・前期
クラス	全クラス
履修区分	必修
授業担当者	江頭 伸昭、山田 孝明
科目ナンバリング	P6076JA
関連科目	免疫学

本科目が求めるアウトカム・コンピテンシー

医療現場において、感染制御における薬剤師の果たすべき役割はますます増えている。本科目では、薬剤師として必要な感染症と抗菌薬の知識等について学ぶ。

ディプロマ・ポリシーにおける本科目が養う資質・能力

- ・人の健康に携わる職業である薬剤師として、より高い倫理観、社会人としての良識を備えているもの
- ・総合的、専門的な薬学の知識とともに、薬剤師としての実践能力や研究を行うに足る技能を有しているもの
- ・単に知識、技能を獲得しているのみではなく、それらを統合的に活用でき、患者の社会的、心理的背景にも配慮することができるもの

臨床感染制御学は、院内・地域・社会の中で貢献する薬剤師の育成の観点から、感染制御に関する知識の重要性を理解する。

アウトカム・コンピテンシーへの到達に関する評価

期末試験では、知識について評価する。

授業計画

回	学習内容・課題	学習方法 (場所)	評価方法
1	抗菌薬, 生物学的製剤の薬理について学ぶ。 I	講義 (講義室)	期末試験
2	抗菌薬, 生物学的製剤の薬理について学ぶ。 II	講義 (講義室)	期末試験
3	抗菌薬の耐性について学ぶ。	講義 (講義室)	期末試験
4	細菌感染症 (薬, 病態, 治療) について学ぶ。 I	講義 (講義室)	期末試験
5	細菌感染症 (薬, 病態, 治療) について学ぶ。 II	講義 (講義室)	期末試験
6	市中感染について学ぶ。	講義 (講義室)	期末試験
7	院内感染について学ぶ。 I	講義 (講義室)	期末試験
8	院内感染について学ぶ。 II	講義 (講義室)	期末試験
9	感染制御薬剤師の役割について学ぶ。	講義 (講義室)	期末試験
10	ウイルス感染症 (薬, 病態, 治療) について 学ぶ。 I	講義 (講義室)	期末試験
11	ウイルス感染症 (薬, 病態, 治療) について 学ぶ。 II	講義 (講義室)	期末試験
12	プリオン病 (薬, 病態, 治療) について学ぶ。	講義 (講義室)	期末試験
13	真菌感染症 (薬, 病態, 治療) について学ぶ。 I	講義 (講義室)	期末試験
14	真菌感染症 (薬, 病態, 治療) について学ぶ。 II	講義 (講義室)	期末試験
15	原虫・寄生虫感染症 (薬, 病態, 治療) につ いて学ぶ。	講義 (講義室)	期末試験

教科書

特に指定しない。

毎回、授業担当者が作成した資料（パワーポイント）を配布する。

参考書

感染症まるごとこの一冊 矢野晴美（南山堂）

抗菌薬の考え方，使い方 岩田健太郎，宮入烈（中外医学社）

評価時期

期末試験（15回後）

評価方法

期末試験（100%）

評価基準

授業への出席が 2/3 未満の場合，期末試験受験資格を与えない。

総評価の 60%以上で合格。

学生へのメッセージ

薬剤師として身につけるべき事であるので，しっかりと身につけて下さい。

担当者の研究室等

研究室 701

オフィスアワー：毎週金曜日 12:40～13:40 17:30～18:30

備考、事前・事後学習課題

講義内容は確実に復習すること。

和歌山県立医科大学薬学部 シラバス

科目名	臨床コミュニケーション
科目名（英文）	Clinical Communication
学部・学科	薬学部・薬学科
配当年次・学期	4年次・前期
クラス	全クラス
履修区分	必修
授業担当者	江頭 伸昭
科目ナンバリング	P6077JA
関連科目	地域医療薬学Ⅱ、社会薬学Ⅰ、社会薬学Ⅱ、社会薬学Ⅲ、 社会薬学Ⅳ、社会薬学Ⅴ

本科目が求めるアウトカム・コンピテンシー

医療現場において、薬剤師の業務は対物業務から対人業務にシフトしてきており、その果たすべき役割はますます増えている。本科目では、医療人として必要な臨床心理学、コミュニケーションについて、患者指導、緩和ケアといった様々な状況における実際について学ぶ。

ディプロマ・ポリシーにおける本科目が養う資質・能力

- ・人の健康に携わる職業である薬剤師として、より高い倫理観、社会人としての良識を備えているもの
- ・単に知識、技能を獲得しているのみではなく、それらを統合的に活用でき、患者の社会的、心理的背景にも配慮することができるもの

臨床コミュニケーションは、高い倫理観を持ち、地域・社会の中で貢献する薬剤師の育成の観点から、薬剤師は、臨床心理学、コミュニケーションの重要性を理解する。

アウトカム・コンピテンシーへの到達に関する評価

期末試験では、知識について評価する。

授業計画

回	学習内容・課題	学習方法 (場所)	評価方法
1	臨床心理学の概説	講義 (講義室)	期末試験
2	コミュニケーションの基礎について学ぶ。	講義 (講義室)	期末試験
3	非言語コミュニケーションについて学ぶ。	講義 (講義室)	期末試験
4	言語コミュニケーションについて学ぶ。	講義 (講義室)	期末試験
5	カウンセリングについて学ぶ。	講義 (講義室)	期末試験
6	チーム医療における臨床心理学について学ぶ。	講義 (講義室)	期末試験
7	患者指導における臨床心理学について学ぶ。	講義 (講義室)	期末試験
8	サイコオンコロジーについて学ぶ。	講義 (講義室)	期末試験
9	がん患者の心理と緩和ケアについて学ぶ。	講義 (講義室)	期末試験
10	がん患者・家族の心理的支援について学ぶ。	講義 (講義室)	期末試験
11	がん終末期の病態と治療について学ぶ。	講義 (講義室)	期末試験
12	がん性疼痛の病態と薬物治療について学ぶ。	講義 (講義室)	期末試験
13	がん治療における神経障害について学ぶ。	講義 (講義室)	期末試験
14	緩和ケアの実際について学ぶ。	講義 (講義室)	期末試験
15	医療における臨床心理学 (まとめ)	講義 (講義室)	期末試験

学習内容・課題

臨床コミュニケーションや臨床心理学について講義を通して学ぶ。

教科書

特に指定しない。

毎回、授業担当者が作成した資料（パワーポイント）を配布する。

参考書

特に指定しない。

評価時期

期末試験（15回後）

評価方法

期末試験（100%）

評価基準

授業への出席が 2/3 未満の場合、期末試験受験資格を与えない。

総評価の 60%以上で合格。

学生へのメッセージ

薬剤師として身につけるべき事であるので、しっかりと身につけて下さい。

担当者の研究室等

研究室 701

オフィスアワー：毎週金曜日 12:40～13:40 17:30～18:30

備考、事前・事後学習課題

講義内容は確実に復習すること。

和歌山県立医科大学薬学部 シラバス

科目名	臨床薬剤学 I
科目名 (英文)	Clinical pharmaceuticals I
学部・学科	薬学部・薬学科
配当年次・学期	4 年次・前期
クラス	全クラス
履修区分	必修
授業担当者	江頭 伸昭、山田 孝明
科目ナンバリング	P6078JA
関連科目	薬物動態学 I、薬物動態学 II、臨床薬剤学 II

本科目が求めるアウトカム・コンピテンシー

本科目では、薬物の体内での動きを定量的に表現する方法を習得する。薬物動態学の基礎となるコンパートメント理論，クリアランス理論等について学ぶ。

ディプロマ・ポリシーにおける本科目が養う資質・能力

- ・総合的、専門的な薬学の知識とともに、薬剤師としての実践能力や研究を行うに足る技能を有しているもの
- ・単に知識，技能を獲得しているのみではなく，それらを統合的に活用でき，患者の社会的，心理的背景にも配慮することができるもの

臨床薬剤学 I は，薬物動態学に関する基礎知識の重要性を理解する。

アウトカム・コンピテンシーへの到達に関する評価

期末試験では，知識について評価する。

授業計画

回	学習内容・課題	学習方法 (場所)	評価方法
1	薬物動態の基礎的概念について学ぶ。	講義 (講義室)	期末試験
2	バイオアベイラビリティについて学ぶ。	講義 (講義室)	期末試験
3	線形コンパートメントモデル 1-コンパートメントモデルについて学ぶ。	講義 (講義室)	期末試験
4	線形コンパートメントモデル 2-コンパートメントモデルについて学ぶ。	講義 (講義室)	期末試験
5	ノンコンパートメントモデルについて学ぶ。	講義 (講義室)	期末試験
6	非線形モデルについて学ぶ。	講義 (講義室)	期末試験
7	生理学的薬物速度論，モーメント解析，組織クリアランスについて学ぶ。	講義 (講義室)	期末試験
8	臨床薬物動態学-分子薬物動態学 I について学ぶ。	講義 (講義室)	期末試験
9	臨床薬物動態学-分子薬物動態学 II について学ぶ。	講義 (講義室)	期末試験
10	臨床薬物動態学-薬物相互作用 I について学ぶ。	講義 (講義室)	期末試験
11	臨床薬物動態学-薬物相互作用 II について学ぶ。	講義 (講義室)	期末試験
12	臨床薬物動態学-疾患と薬物動態，TDM について学ぶ。	講義 (講義室)	期末試験
13	TDM の測定法について学ぶ。	講義 (講義室)	期末試験
14	薬物投与設計をする。	講義 (講義室)	期末試験
15	母集団薬物動態解析と PK-PD 解析について学ぶ。	講義 (講義室)	期末試験

教科書

特に指定しない。

毎回、授業担当者が作成した資料（パワーポイント）を配布する。

参考書

第4版 臨床薬物動態学：薬物治療の適正化のために 緒方宏泰 他（丸善出版）

評価時期

期末試験（15回後）

評価方法

期末試験（100%）

評価基準

授業への出席が2/3未満の場合、期末試験受験資格を与えない。

総評価の60%以上で合格。

学生へのメッセージ

薬剤師として身につけるべき事であるので、しっかりと身につけて下さい。

担当者の研究室等

研究室 701

オフィスアワー：毎週金曜日 12:40～13:40 17:30～18:30

備考、事前・事後学習課題

講義内容は確実に復習すること。

和歌山県立医科大学薬学部 シラバス

科目名	臨床薬剤学Ⅱ
科目名（英文）	Clinical pharmaceuticals Ⅱ
学部・学科	薬学部・薬学科
配当年次・学期	4年次・前期
クラス	全クラス
履修区分	必修
授業担当者	江頭 伸昭、山田 孝明
科目ナンバリング	P6079JA
関連科目	薬物動態学Ⅰ、薬物動態学Ⅱ、臨床薬剤学Ⅰ

本科目が求めるアウトカム・コンピテンシー

本科目では、医療現場において重要視されている、より実践的な投与設計や薬物動態の個体差に関わる要因について学ぶ。

ディプロマ・ポリシーにおける本科目が養う資質・能力

- ・総合的、専門的な薬学の知識とともに、薬剤師としての実践能力や研究を行うに足る技能を有しているもの
- ・単に知識、技能を獲得しているのみではなく、それらを統合的に活用でき、患者の社会的、心理的背景にも配慮することができるもの

臨床薬剤学Ⅱは、医薬品適正使用における薬物動態学の重要性、役割を理解する。

アウトカム・コンピテンシーへの到達に関する評価

期末試験では、知識について評価する。

授業計画

回	学習内容・課題	学習方法 (場所)	評価方法
1	臨床薬物動態学概説, ADME について学ぶ。	講義 (講義室)	期末試験
2	薬物治療に必要な患者情報について学ぶ。	講義 (講義室)	期末試験
3	患者情報源について学ぶ。	講義 (講義室)	期末試験
4	問題志向型システム (POS), SOAP について学ぶ。SOAP 形式の記録を演習する。(演習)	講義 (講義室)	期末試験
5	患者の効果・副作用評価に必要な患者情報について学ぶ。	講義 (講義室)	期末試験
6	患者情報の取扱い, 守秘義務と管理について学ぶ。	講義 (講義室)	期末試験
7	薬物相互作用 I について学ぶ。	講義 (講義室)	期末試験
8	薬物相互作用 II について学ぶ。	講義 (講義室)	期末試験
9	薬物動態の個人間変動-薬理遺伝学について学ぶ。	講義 (講義室)	期末試験
10	薬物動態の個人間変動-食事・嗜好品について学ぶ。	講義 (講義室)	期末試験
11	薬物動態の個人間変動-年齢について学ぶ。	講義 (講義室)	期末試験
12	薬物動態の個人間変動-疾患について学ぶ。	講義 (講義室)	期末試験
13	薬物動態の個人間変動-性差と妊娠について学ぶ。	講義 (講義室)	期末試験
14	個別化医療の計画・立案をする。	講義 (講義室)	期末試験
15	医薬品の開発と薬物動態について学ぶ。	講義 (講義室)	期末試験

教科書

特に指定しない。

毎回、授業担当者が作成した資料（パワーポイント）を配布する。

参考書

第4版 臨床薬物動態学：薬物治療の適正化のために 緒方宏泰 他（丸善出版）

評価時期

期末試験（15回後）

評価方法

期末試験（100%）

評価基準

授業への出席が2/3未満の場合、期末試験受験資格を与えない。

総評価の60%以上で合格。

学生へのメッセージ

薬剤師として身につけるべき事であるので、しっかりと身につけて下さい。

担当者の研究室等

研究室 701

オフィスアワー：毎週金曜日 12:40～13:40 17:30～18:30

備考、事前・事後学習課題

講義内容は確実に復習すること。

和歌山県立医科大学薬学部 シラバス

科目名	医薬品安全性学
科目名（英文）	Drug safety
学部・学科	薬学部・薬学科
配当年次・学期	4年次・前期
クラス	全クラス
履修区分	必修
授業担当者	伊藤 達也
科目ナンバリング	P6080JA
関連科目	毒性学、医薬品情報学、薬理学Ⅰ、薬理学Ⅱ、薬理学Ⅲ、 薬理学演習Ⅰ、薬理学演習Ⅱ、薬理学演習Ⅲ、臨床薬剤学Ⅰ、 臨床薬剤学Ⅱ、社会薬学Ⅰ、社会薬学Ⅱ、社会薬学Ⅲ、社会薬学Ⅳ、 社会薬学Ⅴ

本科目が求めるアウトカム・コンピテンシー

医薬品は有効性が安全性を上回るという、リスク・ベネフィットバランスを常に考え、患者にとり、最善の治療を選択できるよう、薬剤師として、医薬品の面から医療チームに情報提供すると共に、副作用の発現を見落とさず、副作用が重篤化する前に発見し、当該医薬品の投薬中止や代替薬の提案等の対策をとれるよう取り計らうことが必要である。また患者に適切に情報提供できることも必要である。本科目により、薬剤師として、医療における医薬品のリスクを回避できるようになるために、有害事象（副作用、相互作用）、薬害、薬物乱用に関する基本的事項を修得する。

ディプロマ・ポリシーにおける本科目が養う資質・能力

- ・総合的、専門的な薬学の知識とともに、薬剤師としての実践能力や研究を行うに足る技能を有しているもの
- ・単に知識、技能を獲得しているのみではなく、それらを統合的に活用でき、患者の社会的、心理的背景にも配慮することができるもの

医薬品の有害事象は、医薬品が有する特性と患者側の感受性との相互作用により発現する。過去の薬害の事例を学んで、医薬品の安全性確保の重要性を理解すると共に、各医薬品において頻度が高い副作用や代表的な薬物相互作用に関する知識を習得して、薬剤師として注意すべき医薬品の安全性に関する基礎的事項を身につける。また薬物乱用の代表例とその特徴を学習する。

アウトカム・コンピテンシーへの到達に関する評価

講義により取得した知識に関して、期末試験により評価を行う。

授業計画

回	学習内容・課題	学習方法 (場所)	評価方法
1	薬害の歴史	講義 (講義室)	期末試験
2	医薬品の安全性評価 (非臨床、臨床、市販後)、副作用と有害事象の相違	講義 (講義室)	期末試験
3	副作用の種類 (主作用との関連、相互作用) と概要	講義 (講義室)	期末試験
4	薬物アレルギーの原因医薬品、所見、対処法	講義 (講義室)	期末試験
5	血液・電解質障害の原因医薬品、所見、対処法	講義 (講義室)	期末試験
6	腎障害の原因医薬品、所見、対処法	講義 (講義室)	期末試験
7	精神障害の原因医薬品、所見、対処法	講義 (講義室)	期末試験
8	循環器障害の原因医薬品、所見、対処法	講義 (講義室)	期末試験
9	消化器障害の原因医薬品、所見、対処法	講義 (講義室)	期末試験
10	肝胆膵障害の原因医薬品、所見、対処法	講義 (講義室)	期末試験
11	呼吸器障害の原因医薬品、所見、対処法	講義 (講義室)	期末試験
12	内分泌、感覚器障害の原因医薬品、所見、対処法	講義 (講義室)	期末試験
13	皮膚障害の原因医薬品、所見、対処法	講義 (講義室)	期末試験
14	筋障害原因医薬品、所見、対処法	講義 (講義室)	期末試験
15	薬物乱用の代表例とその特徴	講義 (講義室)	期末試験

教科書

「図解 薬害・副作用学」川西正祐、小野秀樹、賀川義之 (編集) 南山堂、ISBN: 978-4-525-72072-8

授業では、パワーポイントファイルの配布を行う。

参考書

特になし

評価時期

期末試験 (15 回後)

評価方法

期末試験（100%）

評価基準

総評価の 60%以上で合格。

学生へのメッセージ

医薬品はその性質から、生体にとって異物であり、また生体機能の修飾という作用を有することから、副作用の発生を 0 にすることはできない。分子標的抗がん剤など、副作用の発現と有効性が相関するものもある。副作用はいかに早期に発見し、それをマネジメントするかが重要であり、この点で薬剤師の寄与は大きい。薬の専門家として、興味を持って学習してくれることを希望する。

担当者の研究室等

研究室 602

オフィスアワー：毎週金曜日 12:40～13:40 17:30～18:30

備考、事前・事後学習課題

事前の教科書を用いた予習と、講義ファイルを用いた事後学習を推奨する。

和歌山県立医科大学薬学部 シラバス

科目名	医療統計解析学
科目名（英文）	Medical Statistical Analysis
学部・学科	薬学部・薬学科
配当年次・学期	4年次・前期
クラス	全クラス
履修区分	必修
授業担当者	伊藤 達也、岩井 佑磨
科目ナンバリング	P6081JA
関連科目	医療統計解析学演習、医薬品情報学、医薬品情報学演習、 社会薬学Ⅰ、社会薬学Ⅱ、社会薬学Ⅲ、社会薬学Ⅳ、社会薬学Ⅴ

本科目が求めるアウトカム・コンピテンシー

薬物治療及び医薬品開発は、効いた・効かないという定性的な結果ではなく、どのような患者に投与した場合に何%の患者でどの程度効いたか、さらに対照患者に比べて統計学的に有意な有効性を示せたか、など統計学的なエビデンスに基づき行われることが必要である。本科目では、医療生物統計、Evidence-based medicine (EBM) の実践、臨床研究デザイン・解析、薬剤疫学解析に関する基本的事項を修得する。

ディプロマ・ポリシーにおける本科目が養う資質・能力

- ・総合的、専門的な薬学の知識とともに、薬剤師としての実践能力や研究を行うに足る技能を有しているもの
- ・単に知識、技能を獲得しているのみではなく、それらを統合的に活用でき、患者の社会的、心理的背景にも配慮することができるもの

医師・看護師等の医療チームや患者に対し、医薬品の情報について理解を得るためには、統計学的に有意差を持って確立されたエビデンスに基づき提供することが必要である。また医薬品開発においては、被験薬と対照薬（またはプラセボ）を比較するために、患者集団が偏りなく群分けされて投与されることなど、臨床試験のデザインが適切であることが必要であり、これはその医薬品のエビデンスレベルに直結する。これら医療生物統計、EBMの実践、臨床研究デザイン・解析、薬剤疫学解析に関して学習し、自信をもって医薬品に関する情報を医療チーム・患者に提供できる能力を身につける。

アウトカム・コンピテンシーへの到達に関する評価

講義により取得した知識に関しては、期末試験により評価を行うと共に、医療統計解析学演習にて実践的な活用（実際に統計解析、薬剤疫学解析を行う）を行い、その結果を口頭発表及びレポート提出して到達度を評価する。

授業計画

回	学習内容・課題	学習方法 (場所)	評価方法
1	臨床研究における基礎統計量、仮説検定	講義 (講義室)	期末試験
2	分布と二群間比較検定	講義 (講義室)	期末試験
3	回帰分析と相関係数	講義 (講義室)	期末試験
4	生存時間解析法	講義 (講義室)	期末試験
5	EBM の基本概念と実践	講義 (講義室)	期末試験
6	代表的な臨床研究法とエビデンスレベル	講義 (講義室)	期末試験
7	介入研究の技法、臨床研究の比較試験法、効果指標と注意点	講義 (講義室)	期末試験
8	臨床研究の結果の主なパラメータ	講義 (講義室)	期末試験
9	臨床研究結果の評価 (バイアスの排除等を含む)	講義 (講義室)	期末試験
10	後発医薬品、バイオ後続品の開発試験	講義 (講義室)	期末試験
11	副作用判定アルゴリズム	講義 (講義室)	期末試験
12	薬剤疫学解析で明らかにされた安全性事例	講義 (講義室)	期末試験
13	システマティックレビューとメタアナリシス	講義 (講義室)	期末試験
14	副作用報告データベースを用いた解析	講義 (講義室)	期末試験
15	病院カルテ情報を用いた解析	講義 (講義室)	期末試験

教科書

「医薬品情報学」山崎幹夫 (監修) 東京大学出版、ISBN: 978-4-13-062421-3
パワーポイントファイルの配布を行う

参考書

「薬剤疫学の基礎と実践 (第二版)」景山茂、久保田潔 (編) 医薬ジャーナル社、
ISBN: 978-4-7532-2779-2

評価時期

期末試験（15回後）

評価方法

期末試験（100%）

評価基準

総評価の60%以上で合格。

学生へのメッセージ

医療統計解析は、医薬品情報の適切な提供という薬剤師業務（及び企業における医薬品開発・市販後調査等）に比較的直結するものである。本科目は、医療統計解析学演習と対になるものであり講義で身につけた知識を、演習で実践して確実に身につけて欲しい。

担当者の研究室等

研究室 602

オフィスアワー：毎週金曜日 12:40～13:40 17:30～18:30

備考、事前・事後学習課題

事前の教科書を用いた予習と、講義ファイルを用いた事後学習を推奨する。

和歌山県立医科大学薬学部 シラバス

科目名	医療統計解析学演習
科目名 (英文)	Medical Statistical Analysis (Practice)
学部・学科	薬学部・薬学科
配当年次・学期	4年次・前期
クラス	全クラス
履修区分	必修
授業担当者	伊藤 達也、岩井 佑磨
科目ナンバリング	P6082JB
関連科目	医療統計解析学、医薬品情報学、医薬品情報学演習、社会薬学Ⅰ、社会薬学Ⅱ、社会薬学Ⅲ、社会薬学Ⅳ、社会薬学Ⅴ

本科目が求めるアウトカム・コンピテンシー

薬物治療及び医薬品開発は、効いた・効かないという定性的な結果ではなく、どのような患者に投与した場合に何%の患者でどの程度効いたか、さらに対照患者に比べて統計学的に有意な有効性を示せたか、など統計学的なエビデンスに基づき行われることが必要である。本科目では、医療統計解析学の講義で学んだ知識に関し演習を行って、実践的に身につける。

ディプロマ・ポリシーにおける本科目が養う資質・能力

- ・総合的、専門的な薬学の知識とともに、薬剤師としての実践能力や研究を行うに足る技能を有しているもの
- ・単に知識、技能を獲得しているのみではなく、それらを統合的に活用でき、患者の社会的、心理的背景にも配慮することができるもの

病院や薬局における薬剤師業務、さらには企業・行政における業務を行う中で、出てきた疑問点について解析し、これを調査・解析して解決するためには、統計学的な知識、薬剤疫学的な知識が必要となる場合が多い。本科目における実践を通じて必要なスキルを身につけ、将来、職務を遂行する際の一助とする。

アウトカム・コンピテンシーへの到達に関する評価

実践的な活用（実際に統計解析、薬剤疫学解析を行う）を行い、その結果を口頭発表及びレポート提出して到達度を評価する。また一部の内容については、グループとして、一つの課題に取り組むことにより、チーム内でのコミュニケーション能力、積極性、協調性、相互教育性を評価する。

授業計画

回	学習内容・課題	学習方法 (場所)	評価方法
1	基本統計量	演習 (講義室)	課題レポート
2	分布解析 (正規分布等)	演習 (講義室)	課題レポート
3	二群間の比較検定 (t 検定等)	演習 (講義室)	課題レポート
4	二群間の比較検定 (χ^2 検定等)	演習 (講義室)	課題レポート
5	複数群の比較検定	演習 (講義室)	課題レポート
6	相関解析	演習 (講義室)	課題レポート
7	発生率、発生割合、リスク比、オッズ比	演習 (講義室)	課題レポート
8	必要症例数	演習 (講義室)	課題レポート
9	重回帰分析	演習 (講義室)	課題レポート
10	二項ロジスティック回帰分析	演習 (講義室)	課題レポート
11	生存分析 (カプラン・マイヤー法)	演習 (講義室)	課題レポート
12	クラスター分析	演習 (講義室)	課題レポート
13	ROC 解析	演習 (講義室)	課題レポート
14	副作用データベースを用いた薬剤疫学解析 I	演習 (講義室)	グループ討議
15	副作用データベースを用いた薬剤疫学解析 II	演習 (講義室)	グループ発表

教科書

パワーポイントファイルの配布

参考書

基礎医学統計学、加納克己/高橋秀人 (著) 南山堂、ISBN: 978-4-524-24149-1

「医薬品情報学」山崎幹夫 (監修) 東京大学出版、ISBN: 978-4-13-062421-3

「薬剤疫学の基礎と実践 (第二版)」景山茂、久保田潔 (編) 医薬ジャーナル社、
ISBN: 978-4-7532-2779-2

評価時期

課題レポート (1~13 回時)

グループ発表 (14、15 回時)

評価方法

課題レポート (80%)

グループ発表 (20%)

評価基準

総評価の 60%以上で合格。

学生へのメッセージ

医療統計解析は、医薬品情報の評価や新しい薬学的エビデンスの構築という薬剤師業務（及び企業における医薬品開発・市販後調査等）に比較的直結するものである。本科目は、医療統計解析学の講義と対になるものであり講義で身につけた知識を、演習で実践して確実に身につけて欲しい。

担当者の研究室等

研究室 602

オフィスアワー：毎週金曜日 12:40～13:40 17:30～18:30

備考、事前・事後学習課題

演習に関する内容を説明し、演習中に解析を行って、その結果を授業終了時に提出し、次の講義の最初に解説するという流れで行う予定である。従って、演習を行う内容に関し、事前に学習することを強く推奨する。

和歌山県立医科大学薬学部 シラバス

科目名	医薬品開発学
科目名(英文)	Drug development
学部・学科	薬学部・薬学科
配当年次・学期	4年次・前期
クラス	全クラス
履修区分	必修
授業担当者	今井 哲司、山下 哲
科目ナンバリング	P6083JA
関連科目	製剤学Ⅰ、製剤学Ⅱ、薬理学Ⅰ、薬理学Ⅱ、薬物治療学Ⅰ 薬物治療学Ⅱ、薬物治療学Ⅲ、薬物治療学演習、がん・化学療法学、 病態生理学Ⅰ、病態生理学Ⅱ

本科目が求めるアウトカム・コンピテンシー

組み替え体医薬品を用いた薬物療法の基礎知識（適応や用法用量など）だけでなく、副作用（症状や発症タイミング）やその対症療法に関する知識を習得し、実践プロセスを説明できる能力を身につける。また、遺伝子治療や遺伝子情報に基づく個別化医療の基礎知識や倫理的問題点について理解する。さらに、臨床でこれまで行われてきた組織移植療法に加え、幹細胞（ES細胞やiPS細胞）を用いた移植療法や遺伝子改変T細胞療法といった最新の治療に関する手技、原理、薬剤師に要求される役割と倫理観について理解を深める。

ディプロマ・ポリシーにおける本科目が養う資質・能力

- ・人の健康に携わる職業である薬剤師として、より高い倫理観、社会人としての良識を備えているもの
- ・単に知識、技能を獲得しているのみではなく、それらを統合的に活用でき、患者の社会的、心理的背景にも配慮することができるもの

医薬品開発学では、先端的医療の概要を知るだけでなく、これまで使用された治療法との対比によって、それぞれの特性（長所と短所）を正しく理解し、治療法選択の妥当性について説明できる能力を育成する。さらに、経済面や個人情報（遺伝子情報など）といった個々の患者背景を考慮して医療を推進できる高い倫理観を習得し、先導的役割を果たす医療人に足る資質・能力を養う。

アウトカム・コンピテンシーへの到達に関する評価

講義中に実施する小テスト（配分計 20%）では、前回あるいは当日の講義内容の重要な事項に関する説明や正誤について問う。期末試験（配分 80%）では、各種医薬品の情報や取扱い、治療法の原理や概要、倫理的問題点に関する重要事項が理解できているかについて論述および正誤問題で問う。

授業計画

回	学習内容・課題	学習方法 (場所)	評価方法
1	授業ガイダンス 組み替え体医薬品についての概論	講義 (講義室)	小テスト、期末試験
2	免疫チェックポイント阻害薬やがん治療に 用いられる代表的な抗体医薬品について 1 (適応、用法用量、副作用など)	講義 (講義室)	小テスト、期末試験
3	免疫チェックポイント阻害薬やがん治療に 用いられる代表的な抗体医薬品について 2 (適応、用法用量、副作用など)	講義 (講義室)	小テスト、期末試験
4	がん治療以外に用いられる代表的な組み替 え体医薬品について 1 (適応、用法用量、副 作用など)	講義 (講義室)	小テスト、期末試験
5	がん治療以外に用いられる代表的な組み替 え体医薬品について 2 (適応、用法用量、副 作用など)	講義 (講義室)	小テスト、期末試験
6	バイオ後続品や組み替え体医薬品の取扱い、 倫理的問題点について	講義 (講義室)	小テスト、期末試験
7	遺伝子変異と疾患の関連性について	講義 (講義室)	小テスト、期末試験
8	遺伝子治療の歴史と最新の動向、求められる 薬剤師の役割について	講義 (講義室)	小テスト、期末試験
9	遺伝子治療の原理、方法と手順について (既 承認治療法を例に挙げて)	講義 (講義室)	小テスト、期末試験
10	がんゲノム医療の実情と倫理的問題点につい て	講義 (講義室)	小テスト、期末試験
11	移植医療についての概論 (歴史、倫理観)	講義 (講義室)	小テスト、期末試験
12	摘出および培養組織を用いた移植医療の原 理、方法と手順についての概要	講義 (講義室)	小テスト、期末試験
13	血液幹細胞を用いた移植医療について	講義 (講義室)	小テスト、期末試験
14	ES 細胞や iPS 細胞を用いた移植医療につい て	講義 (講義室)	小テスト、期末試験
15	移植医療の今後の展望、問題点、薬剤師の役 割について	講義 (講義室)	期末試験

教科書

特に指定しない。

毎回、授業担当者が作成した資料（パワーポイント）を配布する。

参考書

『新しい造血幹細胞移植 末梢血幹細胞移植・臍帯血移植・CD34陽性細胞移植・ドナーリンパ球輸注療法』、南江堂、JAN：9784524216574 など

評価時期

小テスト（1～14回時）

期末試験（15回後）

評価方法

小テスト（20%）

期末試験（80%）

評価基準

授業への出席が2/3未満の場合、期末試験受験資格を与えない。

総評価の60%以上で合格。

学生へのメッセージ

医療は日々発展を続けており、新しい手法に基づく治療法や新規作用機序を有する組み換え体医薬品が次々と登場している。本科目では、それらの概要だけでなく、治療法選択の根拠となる特性についても実例を踏まえて解説する。また、先端的医療を推進する上での倫理的問題点や現状についても知ってもらい、多様なニーズに対応できる医療人材になる基盤を作ってもらいたい。

担当者の研究室等

研究室 703

オフィスアワー：毎週金曜日 12:40～13:40 17:30～18:30

備考、事前・事後学習課題

本科目を履修するに当たり、毎回授業を受ける前に1～1.5時間程度の予習及びそれまでの内容の復習を行うことが望ましい。

和歌山県立医科大学薬学部 シラバス

科目名	事前学習 I
科目名 (英文)	Pre Clinical Learning I
学部・学科	薬学部・薬学科
配当年次・学期	4年次・後期
クラス	全クラス
履修区分	必修
授業担当者	須野 学
科目ナンバリング	P6084JA
関連科目	事前学習 II、病院・薬局実習、病院・薬局薬学

本科目が求めるアウトカム・コンピテンシー

薬剤師の活動、特に医療機関に勤務する薬剤師の役割への理解、患者の薬物療法に携わる薬剤師の役割と責任への理解を深める。医療機関に勤務する薬剤師の活動・使命は、患者（入院）のみならず生活者（退院時）に及んでいることを踏まえ、医薬品を扱う将来の薬剤師として、薬の物質としての理解のみならず、患者の生命・生活への理解を深める。

ディプロマ・ポリシーにおける本科目が養う資質・能力

・人の健康に携わる職業である薬剤師として、より高い倫理観、社会人としての良識を備えているもの

事前学習 I は、地域・社会の中で貢献する薬剤師には幅広い活躍領域が存在し、患者ならびに生活者に、薬を物質として提供扱うだけでなく、生命と健康、生活に対応する能力と行動が要求されることに理解する。病院薬局実習にのぞむ将来の医療従事者としての倫理観、責任ある社会人としての良識を獲得するものである。

アウトカム・コンピテンシーへの到達に関する評価

基本的な知識の再生のみではなく、薬剤師の役割・使命への理解に基づいた思考、行動を、見学时および討議・発表時の行動から評価する。また、レポートでは、見学により得た知見、特に、医療機関に勤務する薬剤師の職能の一部を紹介し解説した上で、その職能の患者・生活者の健康への影響と今後の自らの学びのあり方を考察していることを評価する。

授業計画

回	学習内容・課題	学習方法 (場所)	評価方法
1	授業ガイダンス, 導入講義	講義 (講義室)	レポート
2	病院薬剤師の業務 1 (和歌山県立医科大学附属病院薬剤部)	講義 (講義室)	レポート
3	病院薬剤師の業務 2 (和歌山県立医科大学附属病院薬剤部)	講義 (講義室)	レポート
4	専門薬剤師について (和歌山県立医科大学附属病院薬剤部)	講義 (講義室)	レポート
5	薬局薬剤師の使命と役割 1 (和歌山県薬剤師会)	講義 (講義室)	レポート
6	薬局薬剤師の使命と役割 2 (和歌山県薬剤師会)	講義 (講義室)	レポート
7	在宅医療における薬剤師の役割 1 (和歌山県薬剤師会)	講義 (講義室)	レポート
8	在宅医療における薬剤師の役割 2 (和歌山県薬剤師会)	講義 (講義室)	レポート
9	災害, 救急対応における薬剤師 (日赤和歌山医療センター薬剤部)	講義 (講義室)	レポート
10	地域医療における薬剤師の役割 1 (和歌山県紀南地区病院薬剤部)	講義 (講義室)	レポート
11	地域医療における薬剤師の役割 2 (和歌山県紀南地区病院薬剤部)	講義 (講義室)	レポート
12	行政の現状と薬剤師について (和歌山県庁職員)	講義 (講義室)	レポート
13	バイタルと薬剤師 1	講義 (講義室)	レポート
14	バイタルと薬剤師 2	講義 (講義室)	レポート
15	まとめ	講義 (講義室)	レポート

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

評価時期

レポート（毎回）

評価方法

レポート（100%）

評価基準

本科目は臨床実習に臨む医療人，社会人の姿勢を考慮した授業であることから，正当な理由なく欠席した場合は単位を認めない。

総評価の 60%以上で合格。

担当者の研究室等

研究室 601

オフィスアワー：毎週月曜日 12:40～13:40 17:30～18:30

備考、事前・事後学習課題

和歌山県立医科大学薬学部 シラバス

科目名	事前学習Ⅱ
科目名（英文）	Pre Clinical Learning Ⅱ
学部・学科	薬学部・薬学科
配当年次・学期	4年次・後期
クラス	全クラス
履修区分	必修
授業担当者	須野 学、岡田 浩、江頭 伸昭、今井 哲司、伊藤 達也 伊藤 雄大、松本 みさき、土井 光則、山田 孝明、山下 哲 鈴木 渉太、岩井 佑磨、抱 将史、小柳 円花
科目ナンバリング	P6085JA
関連科目	事前学習Ⅰ、病院・薬局実習、病院・薬局薬学

本科目が求めるアウトカム・コンピテンシー

薬剤師の活動の基礎となる調剤技術、患者対応における態度ならびにコミュニケーション能力を習得する。医療機関に勤務する薬剤師の役割への理解、患者の薬物療法に携わる薬剤師の役割と責任への理解を深める。医療機関に勤務する薬剤師の活動・使命は、患者（入院）のみならず生活者（退院時）に及んでいることを踏まえ、医薬品を扱う将来の薬剤師として、薬の物質としての理解のみならず、患者の生命・生活への理解を深める。

ディプロマ・ポリシーにおける本科目が養う資質・能力

・人の健康に携わる職業である薬剤師として、より高い倫理観、社会人としての良識を備えているもの

事前学習Ⅱは、薬剤師は患者ならびに生活者に薬を正しく提供するだけでなく、患者ならびに生活者の生命と健康におけるニーズの多様性を考慮した対応（情報提供、態度、コミュニケーションスキル）が要求されることを理解し、そのスキル習得を目指す。

アウトカム・コンピテンシーへの到達に関する評価

本科目は、実習およびSGD形式で行う。実習では、病院薬局実習に向けて薬剤師業務の基本的技能やコミュニケーション能力、態度を実技より客観的に評価する。

授業計画

別紙のスケジュールによる。

教科書

実習書を提供する。

参考書

特に指定しない。

評価時期

ルーブリック（毎回）

最終試験（調剤技術まとめ時）

評価方法

ルーブリック（80%）

最終試験（20%）

評価基準

無断欠席がある場合、単位を与えない（公欠等は補習を行う）。

総評価の60%以上で合格

担当者の研究室等

研究室 601

オフィスアワー：毎週月曜日 12:40～13:40 17:30～18:30

備考、事前・事後学習課題

事前学習Ⅱスケジュール

		日目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16					
		時限	1, 2	3-5	1-6	1-6	1-6	1-6	1-6	1-6	1-6	1-6	1-6	1-6	1-6	1-6	1-6	1-6					
グループ (学生1グループは5・6名)	A1	オリエンテーション・導入講義	SGD1																				
	A2			水	SGD調査		VS1	錠	疑義			製1	製2			軟	情1			散			
	A3																						
	A4																						
	A5			疑義	水	SGD調査		VS1	錠			情2	散	製1	製2		軟				情1		
	A6																						
	A7																						
	A8			錠	疑義	水	SGD調査		VS1			情1	情2	散				監				面	
	A9																						
	B1																						
	B2				錠	疑義	水	SGD調査				散	情1	情2	監								
	B3																						
	B4						錠	疑義	水	SGD調査				散	情1	情2	製1	製2					
	B5																						
	B6																						
	B7																						
B8	SGD調査				錠	疑義	水						軟	散	情2					製1			
B9																							

		日目	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	//	OSCE約1週間前							
		時限	1-6	1-6	1-6	1-6	1-6	1-6	1-6	1-6	1-6	1-6	1-6	1-6									
グループ (学生1グループは5・6名)	A1	オリエンテーション・導入講義	SGD2																				
	A2			情2	監	面				SGD調査	SGD2まとめポスターセッション	調剤技術まとめ	情報提供まとめ										
	A3																						
	A4																						
	A5			監				面				SGD調査											
	A6																						
	A7																						
	A8			SGD調査	製1	製2	軟																
	A9																						
	B1																						
	B2			軟	VS1		製1	製2	面	SGD調査													
	B3																						
	B4																						
	B5				面	軟		監	VS1	SGD調査													
	B6																						
	B7																						
B8	製2	面	SGD調査	情1	監	VS1																	
B9																							

SGD1 リスクマネジメント関連項目

SGD2 地域医療と薬剤師活動関連項目

水：水剤 軟：軟膏剤 錠：錠剤 散：散剤

監：監査 疑義：疑義照会

情1：情報提供（薬局患者対応）

情2：情報提供（医療者） 面：患者面談 製1：無菌調整

製2：製剤 VS1：バイタル基礎